



明化の教育

12月号(第495号)
令和3年12月1日
文京区立明化小学校
校長 熊倉 勝

「みんなの子供をみんなで育てる」～地域の温かさに触れて～

校長 熊倉 勝



穏やかな天候の中、自然に大いに親しんだたてわり俳句吟行。6年生がリーダーシップを発揮しました。

「道路に落ちていたので、届けました。」

と言って、高校生がクリアファイルを手渡してくれました。朝の忙しい登校時間にもかかわらず、落としてしまった子供のことを考えて届けてくれたのです。ほっとするとともに朝の正面玄関に温かな空気が流れました。実を言うとほんの数分前、次のような光景があったのです。

一度登校した児童がランドセルを背負ったまま不安そうな顔をして玄関に戻ってきました。話を聞くと、「クリアファイルを落としてしまったのです。」

とのこと。一度登校したら、学校を出ることはできません。やむを得ず、教室に行くように促しました。下を向きながら仮設校舎に戻るその子の後ろ姿を見る

と、「クリアファイルが学校に届くといいな。」と望みを抱きながらも心苦しくなりました。そんな中での出来事でしたので、うれしさが倍増しました。届けてもらった子どもさぞ安心したことと思われます。拾ってくれた高校生は、本校の卒業生だったのかもしれませんが、明化小学校の地域の温かさを実感した一コマでした。

本校では、地域・保護者の皆様に学校教育に関わっていただくことが日常になっています。ゲストティーチャーとして出前授業を行っていただくのはもちろんですが、10月の体育学習発表会では、会場整理係としてPTA役員、委員の方々が協力をしてくださいました。お陰様ではじめての取組でしたが、混乱なく進行することができました。先日のたてわり俳句吟行でも、30名以上の保護者の方々に引率していただき、子供たちは、安心して俳句作りをすることができました。また、明化スポーツフェスティバルでは、子供たちが安全に教育の森スポーツセンターへの往復ができるように地域学校協働本部の方々に引率していただきました。土日には、こどもひろばを開設していただき、子供たちが休日に楽しく遊ぶことができています。器楽部では、OB・OGの方々はもちろんのこと地域ボランティアの方々にも練習でお世話になっています。本当に心強いです。学校に季節のお花を飾ってくださる方もいらっしゃいます。そんな中、コロナ禍で本読み隊の方々に活動していただくことができないのが残念でなりません。

このような地域ぐるみで子供を育てていこうとする思いは、すでにこの地域の文化・風土になっていると感じます。子供たちが地域の方々の温かさを感じ、見守り、支えられているという意識をもつことができるようにするためにも、学校では、「みんなの子供をみんなで育てる」の合い言葉のもと、地域・保護者と連携した教育をなお一層充実させてまいります。

カレンダーも残すところあと1枚となりました。本年も本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。